

男女共同参画社会をめざす

ニューウェーブ

New Wave No.25

市民と市のパートナーシップが創り出す新しい波

平成20年(2008年)11月25日発行

—意識改革が最初の一步—

ワーク・ライフ・バランスへ挑戦!



身近にこんな人はいませんか? ちょっと、辺りを見まわしてみよう。
ホラ、あそこに買物袋を手にした若い女性が保育園めぐりに走っている。きつと、家事や育児や仕事に「何もかも一生懸命のがんばり屋のママさんなんじゃないかね。アラ、駅のベンチに腰掛けているあの男性。重そうなかばんをかかえたまま電車が来ても立とうとしない。ずいぶん疲れているようですね、大丈夫かしら。あなたの周りにも、仕事と暮らしのほだまで心身をすり減らしたり、なにかしら問題をかかえていたりする人が多分いるはず。それとも、あなた自身がそのひとりかもしれません。そんな時に肉体的にも精神的にもストレスを少しでも減らして、こつと、行政や各企業などが注目し実践しようと努力しているのが「ワーク・ライフ・バランス」です。
前号のニューウェーブ24号では言葉の意味をとりあげましたが、今回はひきつづき「ワーク・ライフ・バランス」に焦点をあて、さらに詳しくその事例や成果を見ることにしました。自分自身の仕事と暮らしのバランスとはいったいどのようなものか、考えてみてはいかがでしょう。

発行/横須賀市 市民部人権・男女共同参画課

報告

ゆりさい シネマ「百合祭」上映&監督トーク

5月に男女共同参画の推進に資する講座や講演会の企画を募集しました。選考の結果、市民グループ「葉月の会」の企画が選ばれ、「市民委託事業」として10月25日(土)に総合福祉会館の視聴覚研修室で映画上映と浜野佐知監督のトークを実施し、53人の市民の方にご参加いただきました。

葉月の会…1999年8月発足。男女平等の実現を目的とする自主研究グループ。10月現在、会員は横須賀市在住の女性6人。これまでも、シェルターに関する調査研究、DVと児童虐待との関係をテーマとしたシンポジウムなどを実施しています。

●タブーへの挑戦による「気づき」

高齢化が進む中、これまで高齢者の性愛はタブー視され、とりわけ女性は「ふしだら」などと批判されがちでした。その背景にあるのは「女はこう、男はこうあるべき」という社会通念に基づいたものです(開催案内チラシより)。

映画から、「女だから、男だから」ではなく、いくつになっても「自分らしく」生きていくことへの応援メッセージを感じた方もいたのではないのでしょうか。



浜野佐知監督

●意外な結末に参加者は・・・?

この映画では、吉行和子さん、ミッキーカーチスさん、白川和子さんといった実力派の俳優さんにより、高齢者の男女の性愛がユーモラスに温かく表現されています。しかし最後は意外な展開が・・・!参加者からは、結末に対する賛否両論はあったものの、「年を重ねていくうえで勇気づけられた」という内容の感想が複数寄せられました。

上映後、浜野監督が撮影時のエピソードや海外の映画祭での出来事、結末への思いなどを明るく語ってくださり、会場はリラックスした雰囲気、時間を延長して行った質疑応答も盛り上がりしました。

編集後記

◆人の“呼び名”って色々あるものですね。国民、都民、県民、市民、町民、村民。そして農民、漁民、商人、工員、役人、仙人?。。。環境や立場で“呼び方”が違うけど、本を正せば「ひとりの人」。“男女共同参画社会”の呼び名も言葉だけでなく万民に浸透されるとすばらしい!(私の呼び名は正義の見方“黄金バット”) (今井康治)

◆京都岩倉にある実相院を訪ねた。男女共同参画問題に造詣が深く基本法成立に際し審議会にも列席された作家、林望氏の客殿修復支援チャリティコンサートに参加するため。源氏千年紀に湧く雑踏を抜け、時の流れに沿うようにのんびり走るバスで岩倉をゆくと、寺門から道づたいに蠟燭の炎が迎えてくれた。林先生のバリトンがしみじみと胸に沁み、日々の慌しさに悲鳴をあげていた心がホッと溜息をついた。そして灯がともされたように胸の内が温かくなった。大切なものは何か、ふと、見えた気がする美しい秋の夕べであった。(岩森治美)

◎この広報紙は10,000部作成し、1部あたりの印刷経費は10.4円です。

デュオよこすか

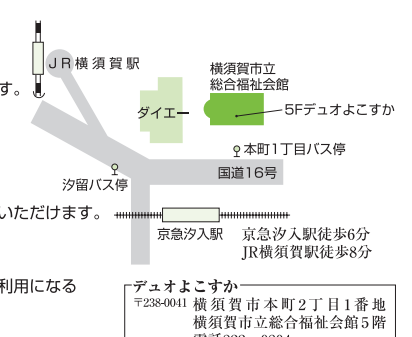
施設・交通のご案内

男性も女性も、社会の構成員として個性と能力を発揮できる社会。

その実現のための足掛かりにさせていただけるような施設を目指しています。

- 開館時間 平日・土曜日 9:00~21:00
日曜日 10:00~17:00
休館日 年末年始(12月29日~1月3日)
設備保守・点検のため臨時休館があります。
- 図書 貸し出しも行っていきます。
期間 2週間
冊数 3冊まで
対象 個人
- パソコン インターネットによる情報収集にご利用いただけます。
(原則として、お一人1時間まで)
- ビデオ DVD デュオルーム内でご覧いただけます。
貸し出しはいたしません。研修等にご利用になる場合は、ご相談ください。
- コピー 有料でご利用いただけます。

図書は、夫婦の問題、仕事、子育て、女性の心や体に関するものがあります。資料は、男女共同参画に関する統計や自治体の取り組み計画などがありますので、自由研究や調べ物にご利用ください。数人で使えるテーブルもあります。



この広報紙の企画編集は、公募の市民の方によって支えられています。
皆様のご意見やご感想をお待ちしています。

横須賀市市民部人権・男女共同参画課 〒238-8550 横須賀市小川町11 ☎046-822-8228

e-mail we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp

ホームページ http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/gender/

やっています! 横須賀市役所の事例と成果

「事例」

- ・男女共同参画の職場リーダーでもある全課長を対象に、「ワーク・ライフ・バランス実現のための時間管理術」の講演会を予定。
- ・出産・育児のための休暇や休業で1年以上仕事から離れていた職員に対し、内部研修の受講に特別枠（優先権）を設け、キャリアの継続を支援する制度を実施中。

「個人の成果」

- ・限られた時間内で成果を出す意識が一層強まり、仕事の仕方を工夫することで終業後の時間ができ、心身ともにゆとりを感じられるようになりました。
- ・職場復帰の制度が整っているため、休業中は安心して育児に専念することができます。

「市役所の成果」

- ・残業を減らす取り組みにより、職員のコスト意識も高まりつつあります。
- ・市役所の仕事は全て市民の生活に関わるものです。職員が実生活の中で体感したこと、そこで得た知識や情報などが、施策の立案・検討をする際に生かされています。

ワークとライフは一生のお付き合い、自分流でつくってみよう!

生涯を通して考えたい「ワーク・ライフ・バランス」。というのも、一般的に「ワーク・ライフ・バランス」は、「仕事と生活の調和」と訳されますが、この「ワーク」を「生活を支えるための仕事」と限定せずに「収入の有無に関わらず、社会的に意義のある活動」と広くとらえるならば、学生にとっては「勉強」、人によっては「家事」や「ボランティア」など、その人なりのワークがあるといえます。また、子どもたちにも、「今の自分の生活時間をバランス良く使うには？」を考えてほしい…。それが将来、「ワーク・ライフ・バランス」を考える力にもなると思います。

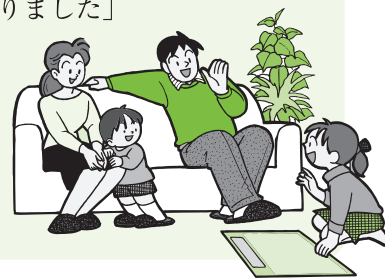
時間と共に変化しながらも「ワーク・ライフ・バランス」は、あなたにとって一生を通じてかわりがあること、決して人ごとではないはず。この機会に、「ワーク」と自分流の「ライフ」が上手にかみ合っているかどうか、ちょっと見つめなおしてみませんか。



人との信頼や共存・共生は、男女共同参画社会でなくてはならない大事な土台。自分だけバランスがとれているつもりワーク・ライフ・バランスも周囲との関係を乱すようでは、ただの自分勝手というもの。職場での同僚・上司・部下・トップとの信頼関係と思いやり、ゆずりあい、そしてお互いの違いを尊重して、初めて健全なワーク・ライフ・バランスが成り立つので、なによりこの土台が大切なのです。

あらゆる場でライフがずいぶん豊かになりました

- ・「家庭内で、それぞれの時間が増え、個々のやりたいことができるようになった」
- ・「家族団らんの時間が持てるようになり、充実した毎日が送れるようになりました」
- ・「勤務時間の短縮で、帰ってから子どもと風呂に入れるようになった」
- ・「介護休暇のおかげで、イライラしないで親の世話ができて、ありがたいです」
- ・「地域団体やサークルに参加する時間ができ、生きがいが増えました」
- ・「町内会活動にも参加でき、近所との関係がとてよくなりました」
- ・「趣味やボランティア活動への時間もとれる余裕ができたので積極的に参加できるようになった」
- ・「ゆったりとした気持ちで子育ての喜びが感じられるようになった」
- ・「世の中の変化や世界を見つめる意識が生まれた」



企業の取り組みの一例

- ・子どもが小学校を卒業するまで、勤務時間を短縮する制度。
- ・子どもの看護休暇、保育料、介護サービス利用費の補助。
- ・ムダ排除などの「業務改善提案制度」
- ・やる気を促す立候補制度や自己申告制度

でもできないよ?

ある社長の悩み

「うちみたいに小さい会社だと、なんといっても競争に勝たないと生き残れない、食うか食われるかの世界ですからねえ。それも、こう不景気だとなおさらのことです。そりゃあ趣旨は賛同しますが、実際に、ライフ優先で大事なときに退社されては困るしねえ。予算も厳しいですから」



ある従業員の声

「チームワークで仕事をしている職場で、自分だけライフを優先して休むなんて申し訳なくて。ひとりだけ先に帰るわけにはいきませんよ。せめてタイミングを見て有給休暇だけでもとれたらいいのだけれど」



だけど、こんな成果が

「個人の成果」

- ・休業によって育児や介護に力を注ぐことができた。その間も職場に復帰できる安心感があり、何の心配もなく暮らせた。
- ・残業が短くなった分、集中して働くようになったし、自分のための時間ができた。
- ・安心して働ける職場として、いつまでも働き続けたい。
- ・心身ともにストレスが減り、働く意欲も増した。

「企業の成果」

- ・多様な従業員の定着と離職率の低下。(退職人員の補充費用の削減や継続就業による経験や知識の流出・損失が防げる)
- ・残業時間の短縮による人件費の削減。
- ・優秀な人材の採用と確保。
- ・従業員の満足度や仕事への意欲向上、心身の健康の保持増進が図られた。
- ・企業イメージや評価の向上



広げよう! ハードとソフトの両輪で

「ワーク・ライフ・バランスの取り組み」は事例でも明らかのように、現在は企業が主流になっており、それも大企業の一部に限られているのが現状です。でも社会全体に浸透するには、中小企業やもっと小さな会社、商店などの対応が必須です。同時に企業以外でも学校(教育委員会)、警察署、消防署、郵便局、病院など公的機関ではどう取り組んでいるかも注目したいところです。日本の社会全体がこの「バランス」をもっと多く生み出す『制度の整備』などをハード面とみれば、それに対し『人としてのモラルやマナー』の精神的部分をソフト面ととらえることができます。この両輪がバランスよく円滑に回転して初めて、めざすワーク・ライフ・バランスに近づけるのです。それには何となく個人意識が最初の一步。心身ともにバランスのとれた暮らしができ、少しでも明るい未来を築くためにも、まずは自分自身とその環境を見つめなおし、そして、大きく広げていきましょう。

男女共同参画社会が見えてくる